

令和5年度第1回総合教育会議 会議録

日 時 令和6年2月8日(木) 午後2時00分
場 所 山武市役所 新館3階 第5会議室
議 題 学校におけるICT環境の整備・運用について

出席者 ◎市長 松下 浩明

◎教育委員会

教育長 内田 淳一

教育長職務代理者 木島 弘喜

委員 北田 昭雄

委員 鈴木 智子

委員 伊藤 範子

○関係職員

副市長 上大川 順

総合政策部長 荒木 康之

総務部長 小川 宏治

教育部長 今関 正典

企画政策課長 内山 晴夫

財政課長 岩澤 和久

教育総務課長 川島 美雄

子ども教育課長 加藤 直樹

子ども教育課指導室長 高橋 和雄

施設整備課長 嘉瀬 多市

事務局

教育総務課副主幹 鈴木 敏一

教育総務課総務企画係主事 市東 和洋

教育総務課総務企画係主事 豊田 真衣

◎開 会

教育部長

ただいまから、令和5年度第1回山武市総合教育会議を開会いたします。本日、司会を務めます、教育部長の今関でございます。よろしくお願いいたします。本日の出席者は、松下市長、内田教育長、木島委員、北田委員、鈴木委員、伊藤委員です。それでは、次第に沿いまして会議を進めてまいります。

はじめに、松下市長よりご挨拶をいただきます。

市長

皆さんこんにちは。はじめに、1月1日の能登半島地震でお亡くなりになられた方々のご冥福を謹んでお祈りするとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

また、被災地での活動に従事されている方々に深く敬意を表し、一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

山武市も職員を今週一名派遣しておりますが、今後も協力できることはしていこうと考えております。

さて、本日はご多用のところ、令和5年度第1回総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。

教育委員の皆さま方におかれましては、日頃より市行政に対してご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は6年ぶりに「山武市サマーカーニバル」を千葉県誕生150周年記念事業として、晴天のもと盛大に開催することができました。コロナ禍前と同様の賑わいが見られ、最後に打ち上げられた大きな花火により、山武の夏の夜空が彩られ、多くの人々を魅了しました。

また、昨年4月から、本市の行政運営の柱となる「第3次山武市総合計画」が新たにスタートしました。この計画では、これまで取り組んできた施策をさらに深化、充実させるとともに、豊かな自然環境を有している山武市のポテンシャルを活かすべく、「まちの魅力」を積極的に発信し、将来にわたって持続可能な自治体経営に取り組んでいくこととしており、その重点分野のひとつとして無限の可能性を秘めた子どもたち、一人一人の個性と能力を最大限に発揮できるよう、「教育環境の整備」を掲げています。

本日は「学校におけるICT環境の整備・運用について」を議題とし、教育委員の皆さまと意見を交換しながら進めたいと思います。

会議の運営にご協力をお願い申し上げまして挨拶いたします。

教育部長

ありがとうございました。

続きまして、内田教育長よりご挨拶をお願いいたします。

教育長

皆さんこんにちは。はじめに、市長の挨拶にもありましたが、年明けに発生しました能登半島地震におきまして、犠牲となられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被害を受けた皆様にお見舞いを申し上げます。

また、学校などの教育機関の復興のため尽力されている方もいらっしゃるということです。関係する皆様に敬意と感謝を申し上げます。

さて現在、市長が教育環境の整備について、市の重点項目に位置づけて取り組んで頂いていることに、まずは感謝を申し上げます。

教育環境の整備ということに関して、国はGIGAスクール構想を掲げ、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された教育ICT環境を実現するという取組を進めています。

このGIGAスクール構想のもと、本市でも、児童生徒用の一人一台端末と高速大容量のネットワーク環境の整備を行い、令和3年度から全ての小中学校で使用しております。

また固定式の電子黒板については、令和3年度、4年度に一部の小中学校に整備し、授業で活用しているところです。

ICT環境の整備が進み、各小中学校では、これまでに培った教育実践と最先端のICTのベストミックスを図り、試行錯誤しながら効果的な授業を展開できるよう取り組んでいます。私が学校訪問をした際には、子どもたちが一人一台端末を活用し、楽しそうに学んでいる姿を見ることができ、大変嬉しく感じました。

しかしながら、電子黒板については現在、一部の学校のみでの整備となっていて、今後、学校間の教育環境を平準化していくことが課題となっています。

このあと事務局から、学校におけるICT環境整備の現状と課題などについて、具体的なお話をさせていただきます。

限られた時間ではございますが、実り多き会議になりますよう、よろしくお願い申し上げます。

教育部長

ありがとうございました。それでは、議事に移ります。

なお、議長につきましては、「山武市総合教育会議設置要綱」第4条第1項により「会議は、市長が招集し、会議の議長となる。」とありますので、これ以降は、市長に議長となっただき、議事の進行をお願いしたいと思います。

◎議 事

(1) 学校におけるICT環境の整備・運用について

市長 それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

 早速ですが、次第にあります「学校におけるICT環境の整備・運用について」を議題とします。

 事務局から説明をお願いします。

子ども教育課長 それでは、事務局より説明させていただきます。

 初めに、これまでのGIGAスクール構想への取組について説明いたします。

 GIGAスクール構想により、一人一台端末と高速大容量のネットワーク環境が整備されました。この一人一台端末は、学習ツールの1つとして、手元に置いて必要に応じて活用するものであり、文部科学省も日常的に使う文房具の1つとなるように環境を整備していくことを求めています。

 教育委員会では、授業でのICT機器の活用について実践を進めており、各学校の情報教育担当で構成されている情報化推進委員会で、推進校の実践や自校の課題について、情報共有を行っております。

 幾つか、写真を例にして具体的に説明させていただきます。前の方の画面をご覧ください。

 はじめは、プログラミングの授業を一人一台端末にて行っているところです。自分でアニメーションのキャラクターを作り、プログラムを入力することで、自動で命令通りに動くアニメが完成します。

 続いて、eライブラリーというドリル的な学習です。これは自分で学年や問題を選べるので、復習に使用したり、興味のある分野であれば、自分の学年を飛ばしてどんどん先の学年を学習したりできます。このように合っていれば丸という回答をしてくれるようなものになります。

 続きまして、オンラインで他の児童とやりとりをしているところです。これをさらに進めていくと、離れた学校の子ども同士で意見交換をすることができます。

 最後ですが、一人一台端末と電子黒板を連動させているものでございます。電子黒板があると一人一台端末の活用の場が大きく広がっていきます。

 このように、一人一台端末が整備され、全国の様々な学校でよい活用事例が紹介されてきている中で、本市でも授業の様子は大きく変わりつつあります。スライドは以上となります。

また、感染症やその他の様々な事情で一定期間、登校することができない児童生徒に対しても、一人一台端末を持ち帰り、状況に応じてオンラインでの授業に参加できるようにしています。今後も、文房具として学校でも家庭でも日常的に活用していけるように、体制整備や意識改革を進めてまいります。

続いて、現在の電子黒板の整備状況でございますが、本市では、日向小学校・松尾小学校・山武中学校・山武望洋中学校の4校は、全ての普通教室に電子黒板が整備されています。

今後、さらに他の学校に整備拡充をしてみたいと考えておりますが、その理由としましては、大きく3つございます。

1つ目は、先行して導入した4校で成果が出ているからです。

2つ目は、山武市総合計画 政策5-1「学校教育の充実」の基本事業の中の、「ICT教育の実践」と重点分野の「教育環境の整備」を推進するためです。

3つ目は、現在整備されている学校とそうでない学校の不均衡を是正していきたいと考えるためです。

一般的な電子黒板導入のメリットとしましては、一人一台端末との相乗効果を高めることができる。児童生徒の興味・関心を高める授業ができる。映像や音声などの活用が容易で、児童生徒の学習意欲や理解が高まる。デジタル教材との組み合わせで、質の高い学習ができる。などが挙げられます。

本市における電子黒板導入による成果について、令和5年12月に教員を対象としたアンケート調査を実施しました。そこで、次のような回答をいただいています。

学習面では視覚に訴えることができるので、児童生徒が興味を持って学習できる。板書した内容を保存できるので、後日、様々な事に活用できる。一人一台端末との接続が簡単で、比較検討の学習がしやすい。

教員の働き方改革につながっている面としては、データの取り込みが楽にでき、学習資料作成の時間が短縮された。模造紙など手書きで作成していた資料が電子で作成できるので簡単になった。データの共有や蓄積ができるので、作成資料が年々減少していく。などの成果が見られます。

これらのように学習面や、教員の働き方改革の面で効果が出ている中、デジタル教科書などデジタル教材や電子黒板の整備について、市内小中学校で不均衡があり、GIGAスクール構想における一人一台端末の利活用状況にも差が生まれているのが現状です。

全市立小中学校に整備した一人一台端末の更に活用するために、デジタル教科書やデジタル教材、電子黒板を導入し、市内全小中学校における教育の

I C T環境を整備・運用することにより、授業改善や学び方の改革を実現したいと考えています。

事務局からの説明は以上となります。

市長

ありがとうございました。

ただ今、事務局から「学校における I C T環境の整備・運用について」説明がございました。

学習面や先生方の働き方改革など電子黒板導入の効果が出ているということです。また、全ての学校に整備されていない状況であり、一人一台端末の利用状況にも差が生じているとのことでした。

これらの件について、教育委員の皆さまと意見を交換しながら進めたいと思います。意見はございますか？

木島委員

はい。議長。

市長

木島委員。

木島委員

教育委員の木島です。これは質問ではなく、意見ということでございます。

G I G Aスクール関係では、これまでも市長には格別のご理解をいただきまして、他市に比べても、かなり進んだ取組がなされていると、私も教育委員として、一市民として、大変誇りに思っております。市長のご理解もありまして、他市より進んだ取組を実施している中、先ほど説明にもありましたが、市内小中学校におきましては不均衡がある、こういった学習環境を改善するためにも、ぜひデジタル教科書やデジタル教材、電子黒板の整備について、遅れるわけにはいかないと思いますので、引き続き予算面でのご支援をお願いしたいと思います。

I C T教育を推進することで大事なことは、「誰一人取り残さない個別最適な学び・協働的な学びの充実」、それと「教職員の働き方改革」だと私は考えています。

特に、誰一人取り残さない個別最適な学び・協働的な学びの充実、基礎的、基本的な学習内容の定着というところにおきましては、やはりアイデアというか、やり方についても学校現場で求められるのではないかと思います。誰一人取り残さない、そういう教育を展開するためにも、かなりアイデアが要る、それこそ教員一人一人の腕の見せどころの部分ではないかと思っています。

市長

ありがとうございました。

木島委員からはまず予算面での支援をお願いしたいということでした。

私も、電子黒板は、市内全ての小中学校に設置する必要があると考えております。一方で、財源も限られておりますので、活用可能な補助金などを検討しながら、整備を進めてまいりたいと思います。

また、既に設置されている電子黒板の入れ替えの時期も考慮する必要もあると思いますので、教育委員会においては優先順位を設けるなど、実現可能な整備計画を立てていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

木島委員

はい、よろしく願いいたします。

鈴木委員

はい。議長。

市長

鈴木委員。

鈴木委員

質問です。先ほど、事務局から学習面での電子黒板導入のメリットについての説明がありましたが、具体的に電子黒板にはどのような機能があるのでしょうか。

また、それらの機能を活用することでどういったことが出来るようになるのでしょうか。

市長

ただいま鈴木委員から電子黒板の具体的な機能についてご質問がありましたが、事務局で回答をお願いします。

子ども教育課長

電子黒板にはどのような機能があるかということですが、言葉で説明するよりも、見ていただいた方がわかりやすいと思いますので、現在、使用している電子黒板の機能説明の動画を用意しましたので、そちらをご覧ください。

まず、この電子黒板ですけれども、画面が非常に明るいという特徴があります。更に影などが出にくい構造になっておりますので、普通の黒板と遜色ない使い方ができます。

続きまして、背景の色を緑だけでなく、色んな色に変えることができます。もちろん文字の色も変えることもできますので、黒い背景に黄色い字が見やすいなど学校でも色々試しているようでございます。このようにボタン1つで自由に変えることができます。

それから、元々このように色々な黒板の画面が入っています。英語であったり、音楽であったり、マス目であったり、このような画面が初期設定で入

っていますので、簡単に使うことができます。もちろんこの背景にも書き込むことができます。

また、背景については、自分で作ったものを保存して使用することができます。今、ここで書いているのは、答えを書き込んでいくような背景を作っているところです。例えば、こういったものをいくつか作っておいて、同時に書き込むといったこともできます。ここでは紹介の画面はないのですが、低学年などはノートのマス目どおりに書くといった場面もあるのですが、ノートをスキャンしておいて保存して読み込ませることで、教師が書いているマス目と同じマス目に子どもたちが書くことができる、これは非常に便利な使い方だと思います。

消しゴムですが、このように消しゴムの機能で黒板消しと同じように消すことができます。今のように一斉に消すこともできますし、ある部分を選んで、そこだけを消すこともできます。そういったような機能もあります。

図形につきましても非常に簡単に書けます。円であればこのように書けますし、立体画像もこのように簡単に書けます。やはりこれらは準備するとなると大変だと思います。色を変えたり、画像を動かしたり、大きさも自由自在に変えることができます。この画像に対して書き込みをしていくこともできます。これが背景とされているので、何cm何cmと書いて、さあどれくらいでしょうかといった使い方もできます。

これからの学習で非常に求められるのが、比較・検討なんですけど、このように2分割3分割4分割できます。同時にこのように書いていくこともできます。写真も同時に比べることができます。隣の画面に入っていくことはできないので、自分のスペースは保証されているということになります。

黒板ですと、見えているスペースしかないのですが、これは1枚の大きな無限大のシートになっていますので、どんどんスライドをすることで、追加をしていくことができます。それを動かしたり、拡大縮小も自由自在ですので、このように小さくして横にずらしたりといったこともできます。今までですと、いっぱいになると消さなければならなかったのですが、消さずに進めることができます。

他の機能としまして、パワーポイントのようにページとして追加をすることができます。資料提示が簡単にできますので、授業の計画が非常に立てやすくなります。もちろんこういった内容は全て保存することができますので、次の時間に、前の時間こんなことしたよねと持ってくることもできますし、他のクラスで使用することもできます。次の年に使うこともできます。

さらに他の機器に接続することで、紙でできた資料を取り込むことができます。そうすることでこのように画面に直接書き込むことができます。なので、子どもが書いたものに対して、ここが上手だねといったことも簡単にで

きますし、考え方の違いを比較することもできます。さらにこれの良いところは、撮影できますので、先ほどの黒板に張り付けることもできます。

USBも取り付けることができるので、画像の取り込みや、動画の再生なども簡単にできます。もともとアンドロイドで動いていますので、インターネットも使用することができます。

ここで1つの例として、蟻の足を書くような問題が出ていますが、問題を解いたあと、1つの操作で正解の写真に切り替えることができます。ある程度映す場所を限定してクイズのようなこともできます。ここではやっていませんが、先ほどの蟻の問題を一人一台端末に飛ばして、子どもたちに自由に書かせて、それを電子黒板上に集めて、比較検討して、誰々くんのはこういうところから出ているねといったようなことが、電子黒板と一人一台端末を使うと簡単にできます。非常に話し合いの授業には向いていると考えております。動画での説明は以上になります。

今、見ていただきましたものは基本的な機能になります。基本機能は、ほとんどの教員がすぐに使いこなせるようになりますので、それほど難しいものではありません。応用的な機能は、先行した導入校では、やはり若手職員の方がこういったものが得意ですので、若手職員同士が色々と試しながら、使える機能を見つけて、職員に広めているといったような事例が見られました。私の説明は以上です。

市長 　　ただいま説明がありましたが、鈴木委員いかがでしょうか。

鈴木委員 　はい、よくわかりました。ありがとうございます。

市長 　　それではありがとうございました。そのほか、いかがでしょうか。

北田委員 　はい。議長。

市長 　　北田委員。

北田委員 　　GIGAスクール構想の中に、教員への支援ということが先ほどありましたけれども、山武市の小中学校で、今も実際に活用されております校務支援システムというものがあります。これは、いわゆる先生方の仕事、例えば一義的には授業を先生方はやるわけですが、そのほかにも、校務の中で出席簿の管理や通知表の作成など色々仕事があるわけです。そのようなことについて、山武市は山武郡市の他の市町に先駆けて、いち早くICTを活用した校務支援システムを導入いたしました。その結果、先生方の仕事が非常

に効率的になって、教職員の職務の負担軽減になっているという現場の意見も多く聞いております。

それはひいては、働き方改革につながると思います。教育の世界の問題の1つに、教職員の長時間労働があります。教員採用試験の倍率が年々低下しているのも、その辺りが原因の1つにはなっているのではないのでしょうか。私も40年近く教員をやってきましたけれども、その中で感じることは、やはり教職員の魅力、教員のやりがいというものをもっと積極的に発信しながら、また他方で、教職員の負担軽減になるような財政的支援も、引き続きぜひお願いいたします。

また、教員の中でも30代後半ぐらいから若い世代は、ICTの活用についても非常に堪能な方が多く、今後デジタルを活用した教員の指導力の向上については、若い世代の方々に前面に出ていただき、どんどん進めていただきたいと思います。

一人一台端末は配り終わりましたが、これからの課題としてはそれを使いこなすソフト、これを広げていただきたいです。

ただし、こういったツールがあるからといって児童生徒の顔を見て話す機会が少なくならないように、つくられた時間をぜひ有効に使って児童生徒に向き合っていただき、そういったお気持ちを持って時間をしっかり取っていただきたいと思います。最後は結局そこだと思いますので、あくまでこういったツールは活用するものであって、基本は児童生徒に教職員が出来るだけ関わって成長に繋げてほしいと思います。以上意見となります。

伊藤委員 はい。議長。

市長 伊藤委員。

伊藤委員 私は電子黒板を導入したことにより、かえって教員の仕事が忙しくなるのではないかと心配です。先生方も今までの教え方を変えていくことは大変でしょうし、各校や各先生の自主性に任せることも中々進まないところではあるかと思えます。

先ほど事務局から電子黒板を整備することによって教員の働き方改革に繋がっていると話がありました。しかし、今までと仕事のやり方が大きく変わるわけですから教員としては仕事の時間が増加することはないのでしょうか。

また、使用する教員によって授業内容の質に差が出てしまうのではないかと心配です。これらについて事務局はどうお考えでしょうか。

子ども教育課長 はい。議長。

市長

子ども教育課長。

子ども教育課長

学校における働き方改革の取組でございますが、会議あるいは研修などにつきましては、オンライン化、ペーパーレス化などによる改善の取組が既に始まっています。

職員間の会議や児童生徒、保護者への文書などの配布につきましても、スマートフォンなどへのデータ配信の置き換えに取り組んでおります。また、授業や家庭学習におきましても一人一台端末や各種ソフトウェアの活用により効果的、効率的な授業改革の中でペーパーレス化が進んでおります。

校務につきましても、北田委員のお話にもありましたが、校務支援システムを活用することで、かなり時間の短縮ができております。また、これまで学校から児童生徒や保護者に配布していた各種の手紙などにつきましても、クラウド経由で配信することで、印刷や仕分けにかかっていた教員の負担軽減が図られています。

なお、北田委員のお話のとおり働き方改革は、子ども達と向き合う時間を確保するための学校業務改革だということが、大前提でございますので、そこを見誤らずに今後も児童生徒に教職員が向き合っていきたいと考えております。

続きまして、伊藤委員のご指摘、ご心配のとおり、電子黒板そのものに慣れることや使い方を習得するまでに、多少戸惑いはあります。ただ、先ほど、動画で見ていただいたように、普通の黒板と同じように使うことはできますし、さらにプラスアルファのことが簡単にできるということで、今まで導入してきた学校では、一遍にやろうとせず、少しずつスキルを高めていくことで、少しずつ大きな負担なく導入できました。

電子黒板の導入によって教員の働く時間の短縮が図られるという面では、例えば、掲示物は紙で作るより電子で作成する方が早いですから、時間の短縮に繋がるだけでなく、活用の幅も大きく広がると考えております。黒板に書いた内容が保存できることで、他のクラスで活用したり、翌年に活用したりすることも可能となり、授業準備の簡略化にも繋がっていくと思われま。

授業内容の質に差が出ることにつきましては、研修でスキルを高めたり、交換授業を取り入れたりしながら、そのようなことにならないように対応していきたいと考えております。事務局からは以上でございます。

市長

ありがとうございました。

学校におけるICT環境の整備が、学習面や教職員の働き方改革に繋がっていくことが理解できました。

また、これまでの導入経緯や予算の問題もあったと思いますけれども、電子黒板を導入している学校と導入していない学校があることについては、私は、子どもたちに同じ教育環境で学んでほしいと考えておりまして、できるだけ早期に、全校の整備に向けて検討していきたいと思います。

学校におけますICT環境の整備に向けて、活用可能な補助金などについて、事務局から、何かご提案はありますか。

企画政策課長 はい。議長。

市長 企画政策課長。

企画政策課長 市内全校におけるデジタル教科書や、電子黒板の導入に関しまして、企画政策課では、デジタル田園都市国家構想交付金の活用を検討しております。

こちらの交付金の概要ですが、国が策定した「デジタル田園都市国家構想」に基づき、地方自治体のDXやデジタルを活用した地方創生を推進することを目的とした、国から地方自治体への交付金でございます。

デジタル田園都市国家構想交付金は目的別に主に3つのタイプに分類されており、今回活用を見込んでいる「デジタル実装タイプ」というタイプでは、デジタル技術を活用し、サービスの高度化・効率化を推進するため、デジタル実装に必要な経費を支援することを目的にしております。

デジタル教科書及び、電子黒板の導入は、他市町村でも事例があり、市民サービスに直結する点から、この「デジタル実装タイプ」に該当し、申請対象であると判断しております。申請後、国に採択された場合、事業費の1/2が国から補助されるものになります。

申請に係る実施計画などの作成について、今後も教育委員会と調整、協議を行いながら進めてまいりたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

財政課長 はい。議長。

市長 財政課長。

財政課長 ただいま、企画政策課長から説明がありましたが、電子黒板の導入にあたりましては、財源として国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用してまいりたいと考えております。

また電子黒板導入にかかる予算につきましては、国への交付金申請事務などと並行して行う形になりますが、今年度の3月補正予算に計上し、翌年度に繰り越しての実施となる見込みでございます。

今後も、整備計画や導入方法について、教育委員会と協議を行いながら進めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

子ども教育課長 はい。議長。

市長 子ども教育課長。

子ども教育課長 交付金の活用を考えていただきありがとうございます。
教育委員会では電子黒板整備計画について、これまでに検討を進めてきましたが、早急に計画を具体化し、進めてまいりたいと思います。

市長 はい、ありがとうございます。

電子黒板整備に係る予算としましては、先ほど財政課長からもお話がありましたデジタル田園都市国家構想交付金の活用が見込めるということで、今年度の3月補正予算に計上いたしまして、翌年度に繰り越しての実施となる見込みであるということでございます。

先ほどから申し上げておりますが、市内小中学校の子どもたちには、同じ学校環境で学んでほしいと考えておりますので、年度末慌ただしい中とは思いますが、令和6年度から電子黒板の導入を進めていきたいと思っております。
よろしく願います。

それでは、内田教育長、お願いいたします。

教育長 学校教育の中でICTをどのように活用していったらよいかということについて、様々な角度からご意見を頂戴し、ありがとうございました。また、予算面に関してもご検討いただきありがとうございました。

冒頭の挨拶でも申し上げましたが、国のGIGAスクール構想で目指す姿は、特別な支援を必要とする子も含めまして、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質能力が一層確実に育成できるICT環境の実現でございます。

このGIGAスクール構想に基づき、本市でも児童生徒用の一人一台端末や高速大容量のネットワーク環境などを整備して参りました。

また、それらを運用していくための仕組みづくりや児童生徒の学習支援、教職員に対する指導の支援、研修の実施など、様々な形で学校をサポートする体制を構築し、これまでに一定の成果を挙げてきたところでございます。

今、子どもたちの学習は、単に基礎的な知識を学ぶというような学習の形だけでなく、身につけた知識を組み合わせたり、他の児童生徒と比較したりして、知識を活用していく形、いわゆる活用型の学習も、大きなウエイトを占めるようになりました。先ほど子ども教育課長から動画でも示したとおりです。

一人一台端末が整備されたことにより、現在、教育ニーズに応じた個別最適な学習が可能になりました。それに加えて、子ども同士が活発に意見交換をするような協働的な学習を多く取り入れ、活用的な学習を深め、充実させていきたいと考えております。

今後、電子黒板の整備を広げていくことで、個別最適な学びと、協働的な学びとの一体的な充実を図り、市内の児童生徒の主体的、対話的で深い学び、いわゆるアクティブラーニングに繋げて参りたいと考えています。以上です。

市長

ありがとうございました。

本日の協議は以上でよろしいでしょうか。

本日は、各委員の皆様、色々と貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。

特に北田委員からこういったツールがあるからと言って児童生徒の顔を見ないことが絶対無いようにということでお言葉をいただきました。まさにそのとおりだと思っておりましたので、先生方にはぜひ時間が空いた際には子どもたちの顔を見ながらということをお願いしたいと思っております。

我々としましても、少ない予算の中ですが、子どもたちのためにしっかり教育環境を整備していくことが大事だと思っております。皆様方にはこれからも色々な意見をいただいて、山武市の子どもたちのために、話し合いの場を出していただきたいと思っております。

以上で議長の任を解かせていただきます。

会議の進行にご協力いただきありがとうございました。

教育部長

市長、議事進行ありがとうございました。

本日は、皆様より多くのご意見、具体的な施策、方向性を頂戴いたしました。誠にありがとうございました。

本日の会議録につきましては、後日、市ホームページでの公開を予定しておりますので、よろしくお願いたします。

なお、別件になりますが、山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本計画については、令和7年度に前期計画の期間が終了するため、来年度以降「学校のあり方検討委員会」を設置し、今後の適正配置について検討していく予定です。

それでは、これもちまして本日の会議を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

◎閉 会 午後2時45分